

平成31年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	上田市	
施 設 名	上田市交流文化芸術センター	
助 成 対 象 活 動 名	人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	11,408	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人材養成事業	2,116	(千円)
普及啓発事業	9,292	(千円)

(3) 平成31年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	レジデント・カンパニー(1年目)による「WS&公演」	2019年7月8~12日	アウトリーチ 指導：田畑真希、中村理 対象：市内小学生	目標値	140
		塩田西小学校 他		実績値	304
2	アーティスト・イン・レジデンス 芸術家ふれあい事業(音楽)	2019年7月2日 他	アウトリーチ、公民館公演 他 出演：金子三勇士、川久保賜紀 他 対象：市内小学生 他	目標値	3,200
		清明小学校 他		実績値	2,430
3	平日マチネ ワンコイン コンサート シリーズ(全6公演)	2019年4月10日 他	ホールでのコンサート 他 出演：浜まゆみ、酒井有彩、田中拓也 with 中野翔太、入江一雄 他	目標値	1,500
		小ホール 他		実績値	1,639
4	上田のアートな商店街 マチ×マチフェスティバル	2019年10月31日 他	街中でのアートフェスティバル 出演：BLACK BOTTOM BRASS BAND、 きむらとしろうじんじん 他	目標値	750
		上田城跡公園 他		実績値	789
5	高校生が創る 「実験的演劇工房」	2019年11月30日 他	演目：「THIS IS ME」 出演：市内高騰学校演劇部 演出・監修・指導：多田淳之介	目標値	320
		大スタジオ 他		実績値	343
6	姉妹都市交流事業 実験的演劇工房プラス	2019年8月1日 他	演目：「豊岡駅前小鳥商店」 出演：豊岡市・上田市高等学校生 演出・監修・指導：内藤裕敬	目標値	330
		小ホール 他		実績値	173
7	レジデント・アーティスト による 「WS&市民参加公演」	2019年5月11日 他	演目：「ハコニワ」 出演：公募で集まった市民 他 振付・指導・出演：田畑真希 他	目標値	250
		大スタジオ		実績値	259
8	日本劇作家大会 2019 上田大会	2019年8月14~19日	渡辺えり講演会「演劇に恋して」、 ドラマリーディング「鎖骨に天使 が眠っている」、マキノノゾミ WS 他	目標値	6,000
		大ホール 他		実績値	3,184
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>◎ 地方自治体の文化政策とミッションの整合性</p> <p>上田市の直営施設「上田市交流文化芸術センター」では、「第一次上田市総合計画」及び「文化芸術振興基本法」を踏まえた「上田市文化芸術振興に関する基本構想」の中で、『広域的な文化交流をも視野に入れた新たな拠点づくり』のための重要な役割を担う施設として位置付けられています。</p> <p>その基本構想に基づき、「人にやさしい 夢と未来を紡ぐ 創造都市うえだ」の実現に向けて『育成』を基本理念に「芸術的価値」「地域的価値」「社会的価値」「経済的価値」の4つの価値を生み出していくことを目標とするミッションの設定を行いました。</p>
<p>◎ 施設の強み・特色・特徴的な取り組み</p> <p>上田市政策企画部に置かれた施設として、まちづくり、観光、教育、福祉、医療などの様々な分野と連携した事業を展開。「劇場の好循環」を「地域の好循環」へと発展される活動が、社会的役割（ミッション）の達成と基本理念の実現へつながることから、市の行政施策と直結した劇場として役割を果たしていきたいと考えます。</p>
<p>◎ 計画変更の事象と要因</p> <p>令和元年東日本台風での洪水被害及び、令和2年2月末以降のコロナウイルス感染症への対応のため、当初予定されていた公演、学校等でのアウトリーチ活動が困難となり、一部プログラムにおいて計画変更を余儀なくされました。また、一部事業においては、演出家や出演者と協議のもと、交付申請書提出後に計画の縮小、拡大が行われたことから、今後は可能な限り具体的な計画の策定に留意いたします。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>◎ 教育機関との連携</p> <p>上田市教育委員会との連携の元、アウトリーチ事業「クラスコンサート」を実施。間近でプロの芸術家の実演に触れることにより、児童の感性や想像力を育み、人間性やコミュニケーション能力を育むことにつなげたいという学校側のニーズに対し、劇場が持つ実演芸術家とのネットワークや企画・制作能力を活用。平成31年度は上田市内の小学校全25校、1,786名の児童に向けて、クラシック音楽の生演奏やダンスのワークショップを届けることができました。</p>
<p>◎ 医療機関との連携</p> <p>上田市が運営する「上田市立産婦人科病院」において、お産までの心を整え、自然なお産につながり、やがてこの活動が心豊かで多様性のある地域づくりにもつながるよう計画したコンサートは、コロナウイルス感染症対策のため中止となりましたが、今後も普及活動および社会包摂機能の強化を図るべく、地域の医療機関や福祉分野との連携も行ってまいります。</p>
<p>◎ 青少年の育成への取り組み</p> <p>『高校生が創る「実験的演劇工房」』では劇場と教育機関とが連携し、学校の垣根を越えた交流（制作作業）を経験しながら、高校生たちの表現活動の普及啓発を試みる事業として、高校側から要望が高い事業です。平成31年度には上田市内の高校3校から13名の演劇部員が集まり演出家の指導の元、作品制作に取り組みましたが、今後は事業内容や実施時期、実施期間を再検討し、新たな参加者拡大につなげたいと考えます。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

人材養成事業

(1) 目標とその達成状況

- ① 芸術を活用した『多様なプログラム』の実施…ダンス・舞台技術・レセプションをテーマとした基礎講座&ワークショップや、地域の表現者などを対象に、演出家の指導によるドラマリーディングを行いました。
- ② 誰でも参加できる『環境づくり』への取り組み…広く市民の参加を募り、これまで舞台芸術に興味がなかった方の参加を促しました。また、大学、企業、行政など様々な対象に向けたコミュニケーションワークショップやアウトリーチを実施。様々な業種からの幅広い参加が実現しましたが、今後は更なる多様化を進めたいと考えます。

(2) 指標とその達成状況

① 多様なプログラム

実施プログラム数	2022年までの目標	H31実績
①創作 実験的なプログラム	1プログラム/年	0プログラム/年
②講座 基礎講座	3プログラム/年	3プログラム/年
③芸術家の育成プログラム	2公演/年	1公演/年

② 環境づくり

対象者の多様化	H31目標	H31実績
④大学や企業との連携	3団体	3団体
全国規模の研修プログラム	ビエンナーレ開催	

舞台芸術に興味が無かった人や市外・県外の人でも参加できる「環境づくり」に関する指標を設定しました。

事業の性質上、増加ではなく安定的な実施を目指します。

普及啓発事業

(1) 目標とその達成状況

- ① 「拡大」…学校や公民館など身近な場所でのコンサートを定期的に開催することにより、観客の拡大につながりましたが、更に幅広い世代に対するアプローチが今後の課題と考えます。
- ② 「定着」…公演のシリーズ化と開催時期の定期化を図ったことで、劇場にアクセスしやすい環境を整えることができました。劇場に足を運ぶことが生活の一部になるよう、今後も定期性を意識した企画づくりを継続します。
- ③ 「発展」…アナリーゼワークショップなどのオリジナルのレクチャー企画をアーティストと共に作り上げることで、更に深く芸術の魅力に「触れたい」「深めたい」という観客のリクエストに応えることができました。

(2) 指標とその達成状況 ～2030年ビジョンの実現に向けたアートと地域の持続可能性の向上～

指標の設定に際しては、より適正な数値を抽出をするため、継続性(枠組み)が確保され、かつ特色のある事業として『芸術家ふれあい事業(音楽)』と『ワンコインマチネシリーズ』を指標として設定。事業の定着性が確認できました。

① 拡大

【環境づくり】 身近な場所で開催

施設外プログラム数	H31目標	H31実績
芸術家ふれあい事業 ワンコインマチネシリーズ	72回	50回

※コロナウイルス感染症対策のため予定されていた4回分を中止

① 拡大

幅広い世代へ具体的なアプローチ

働く世代をメインターゲットとしたプログラム数の拡大	H31目標	H31実績
	6回	0回

※コロナウイルス感染症対策のため予定されていた1回分を中止

② 定着

【環境づくり】 事業の定期性の確保

複数回来場者の増加(11回以上)	H31目標	H31実績
リサイタルシリーズ	24.0%	36.0%
ワンコインコンサート	30.0%	42.0%

③ 発展

魅力的なワークショップの実践

アナリーゼWS参加者数	H31目標	H31実績
	330名(6回)	214名(5回)

※コロナウイルス感染症対策のため予定されていた1回分を中止

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

人材養成事業

(1) 事業期間の適切性

人材養成事業の主要事業として位置付けられる「うえだアーツ・スタッフ・アカデミー 基礎講座&連携」においては、参加しやすい環境を整えるよう、事業期間や事業実施時間帯の設定を工夫。複数回に渡る事業のため、時間や曜日に周期性を持たせて当初計画しましたが、出演者や講師との日程調整の中で変更が生まれました。

また、人材養成事業では、双方向のコミュニケーションを重視する事業が主となるため、参加人数の設定においては出演者や講師と検討し、各事業ごとに適切な参加定員を設定。定員を超える申し込みがあったプログラムにおいては柔軟な対応をしましたが、プログラムの効果を最大限に発揮するためには少人数で行うことが重要となる事業もあるため、今後は参加者のニーズ把握に努め、実施回数を増やすことで、できる限り受け入れができるよう改善します。

(2) 事業費の適切性

収支の面について、人材養成事業においては支出の割合が高くなるため、適切な事業費となるよう特に支出の抑制に努めていますが、「うえだアーツ・スタッフ・アカデミー 基礎講座&連携」においては、要望時の金額に対して支出額が122.11%となりました。増加理由としては、これまでよりも広く参加を周知するために、当初予定していなかった広告宣伝費(チラシ作成)を計上したことによります。

普及啓発事業

(1) 事業期間の適切性

普及啓発事業においては、アーティストが地域に一定期間滞在し、様々な芸術活動を行う「アーティスト・イン・レジデンス」が事業の中心となります。その中でも滞在が長期間になる「芸術家ふれあい事業」では、市内全小学校と全地区公民館との日程調整に加えて、出演者のパフォーマンスに影響が出ない、適切なスケジュール管理に努めました。

また、参加者数については、令和元年東日本台風での洪水被害及び、令和2年2月末以降のコロナウイルス感染症への対応のため、2事業において当初の見込みよりも下回り、その他1事業については、自然災害や感染症対策以外の理由で50%近い乖離が見られました。

有料公演ではないため収入面での影響はありませんでしたが、乖離した理由については、展示部門(ポスター展、見本市など)への参加者数のカウントができていなかったためと考えられます。

今後は事業評価において重要な指標となる、参加者数のカウントが適切に行われるよう留意いたします。

(2) 事業費の適切性

当初計画から比較して、事業費が20%以上減少した事業が2事業ありました。その内1事業については、自然災害により事業の一部が実施できなかったためですが、その他1事業については、当初参加者として想定していた多くの大学生が、カリキュラム変更により集中講義が入ったことで参加できず、計画よりも参加者が減少し、その分旅費の支出が大幅に減少したことが要因です。また、20%以上増加した事業も2事業ありました。

最終的にトータルで変更率は-12.7%に収まっているものの、助成対象8事業中、4事業において20%以上の増減がみられることから、要望書の段階でより適切な積算が行われるよう留意いたします。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

アーティスト・イン・レジデンス を 創作・劇場力の強化・行政施策へ活用

上田市交流文化芸術センターでは滞在型事業「アーティスト・イン・レジデンス」を中心に事業を組み立てており、そこから様々な活動を展開しています。

(1) 劇場力の強化 ～劇場の好循環を生み出す活動～

劇場の活動では、活動の中心となる『芸術家ふれあい事業』から「参加→体験→協働→鑑賞→発信」へと繋がる劇場の好循環を創出。

アーティストが一定期間上田市に滞在し、地域の方々との触れ合いや共に作品制作を行うことで、劇場に必要とされる試み(啓発・育成)や上田市の魅力(上田オリジナル)を取り入れた創造事業を実施・発信することができました。

このような取り組みを継続的に実施してきたことで、その活動が外部においても評価され、H31は以下の賞を受賞しました。

◎ 令和元年度「地域創造大賞（総務大臣賞）」受賞

地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりに特に功績のあった公立文化施設に贈られる「地域創造大賞(総務大臣賞)」を受賞。レジデント・アーティストによる「芸術家ふれあい事業」を展開し、音楽家やダンサーを上田市内の全小学校・全地区公民館に派遣するほか、ワンコイン・コンサート、リサイタル、演出家や振付家によるワークショップ、高校生演劇事業、市民参加ダンス・演劇公演などを実施。アーティストとの交流により、文化の薫るまちづくりをけん引したと高く評価されました。

◎ 令和元年度「地域プロモーション大賞」選考委員特別賞『箭内道彦賞』受賞

自治体が作成する秀逸なプロモーション動画を発掘し表彰する「第1回地域プロモーション大賞(第1回ふるさと動画大賞)選考委員特別賞『箭内道彦賞』」を受賞。受賞動画は、公募により集まった市民とレジデント・アーティスト「ブラック・ボトム・プラス・バンド」がジャズを演奏しながら上田城や別所温泉など上田市内の観光地を巡るとともに、地域の伝統工芸品である「上田紬」や上田名物の「美味だれ焼き鳥」などの名産品を紹介する内容。「動画が作られているワークショップの過程で、上田市に“新たなこと”がすでに始まっていると感じた。動画制作が素晴らしい副産物を生んだ好例」と箭内道彦委員長に評価されました。



「BLACK BOTTOM BRASS BAND とめぐる上田～塩田・別所地域 in Autumn」

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

(2) 創作と再演

上田市交流文化芸術センターで創られた作品が 全国の劇場・音楽堂で再演されています。

◎ レジデント・カンパニー

初演年度	レジデント期間	作品名	再演年度	再演劇場等	再演での連携
H27	H26・27	真田風雲録	H28	大阪芸術大学	舞台美術の提供
H28	H27・28	とこしえに	H29 H30	旧K邸 アルカスSASEBO ほか	作品連携
H29	H28・29	「Sumako」ー或新劇女優探索記ー	H30	伊丹・アイホール	作品連携

◎ レジデント・アーティストとの全国ツアー

初演年度	作品名	再演年度	ツアー地域	備考
H27	ロマン派症候群	H29	仙台、豊田、大津、豊岡、雲南、北九州	初演はリーディング公演

◎ 実験的演劇工房

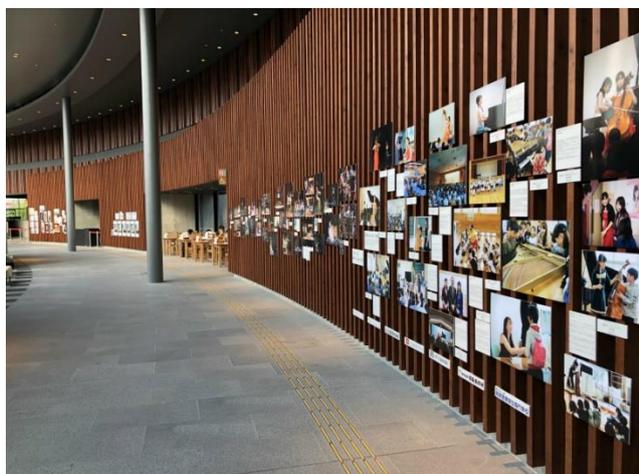
公演年度	レジデント期間	作品名	再演年度	再演劇場等	再演での連携
H28	H28・29	実験的3rd Q学	H30	桜美林大学 ほか	舞台美術の提供

※Q 学の初演及び製作は、北九州芸術劇場

(3) 劇場の「活動」と「役割」が見える広報

広く公開される形で行われる「公演事業」とは異なり、「人材養成事業」や「普及啓発事業」の取り組みは、特定の対象に向けてクローズで行われることも多く、特にアウトリーチ活動は学校等で実施されるため、劇場の特色として位置付けている事業にも関わらず、その活動が表に見えて来づらい状況がありました。

一般の方々にもこのような活動を知っていただくために、見える形で劇場の共有スペースに活動記録やシリーズ企画の写真パネルを展示。チケットの販売につながる広報だけではなく、限られた予算の中で劇場の「活動」と「役割」を知っていただき、「何をしている劇場なのか」芸術未経験層・無関心層に対して働きかける広報活動を積極的に行いました。



「劇場の活動の可視化」



「シリーズ事業の紹介」

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

(1) 当該施設職員の人材養成の取り組み

運営に関わる人材の育成を目的に、外部研修会に積極的に参加し、劇場として継続的に組織強化に取り組んでいます。

他施設等への職員派遣

平成25年10～11月	横浜美術館への派遣	36日間・1名
平成25年11～12月	横浜美術館への派遣	33日間・1名
平成26年1月	横浜美術館への派遣	8日間・1名
平成26年12月	新国立劇場への派遣	14日間・2名
平成27年2月	まつもと市民芸術館への派遣	10日間・3名
平成27年7月	南河内万歳一座への派遣	10日間・2名

研修会への派遣

- ・全国公立文化施設協会
 - 「アートマネジメント研修会」
 - 「技術職員研修会」
 - ・(一財)地域創造「ステージ・ラボ」
 - ・新国立劇場主催「舞台技術運用セミナー」
- など

他施設等からの講師招へいによる研修

人材養成事業「アーツ・スタッフ・アカデミー」で講師を招聘しています。

(2) 当該施設職員以外の人材育成の取り組み

劇場職員が企画・制作・運営のスキルを活かし、各地で行われる研修会等において講師を務めています。

大学との連携

大学への講師派遣	長野大学 メディア芸術論に非常勤講師として職員を派遣
インターンシップ受入	毎年、2～5名程度のインターンシップを受け入れています。

その他

都道府県	長野県 芸術監督団・ホールスタッフ向け研修会	・講師 (H28～)
	岩手県 平成29年度アートマネジメント研修	・講師 (H29)
(一財)地域創造	ステージ・ラボ 公共ホール音楽活性化事業	・コーディネーター、講師
オーケストラ	兵庫芸術文化センター管弦楽団 楽団員向けアウトリーチ研修	・講師(H29,H30)
音楽がヒラク未来	2016東京、2017東京、北九州、上田、札幌	・講師、パネリスト
研修の受入	北九州市響ホールから、平成28年度・1名、平成29年度・1名の研修(OJT)を受け入れました。	

(3) 寄付金等の外部資金の獲得に向けた取り組み

基本理念に賛同する企業から広く寄付を募る「サントミュージアパートナーズ」事業は、これまで協賛企業が 3 社でしたが、H31は 6 社に倍増しました。今後は寄付だけではなく活動の連携や協働にもつなげていきたいと考えています。

